

授業科目名	ウィメンズヘルス看護学臨地実習		担当教員	◎下 睦子、久保 幸代、 志村 千鶴子、潮田 千寿子、 吉田 美和	科目ナンバリング NS385
必修	開講年次：3年後期	単位：2単位	授業形態：臨地実習90時間		

【授業概要】

女性の健康生活を援助するために必要な基礎知識と技術を修得する。

女性のライフサイクル各期におけるヘルスアセスメント技術、健康教育、看護技術、周産期にある人々への看護実践に携わり、またハイリスク状態の看護実践にも参加する。妊娠、分娩、産褥期にある女性と新生児の身体的、心理的、社会的変化がもたらす健康問題についてアセスメントし、看護計画を立案・実行・評価する。

【達成目標】

1. 新しい家族の誕生期にある人々の理解と必要な日常生活における基本的なセルフケアを維持促進するよう援助するための技術が実践できる。
2. 女性の健康生活を援助するためのライフサイクル各期におけるヘルスアセスメント技術、健康教育、看護技術、周産期にある人々への看護実践ができる。
3. 妊婦の分娩各期の経過やそれに対する母子や家族の反応をアセスメントし、看護計画を立案、介入、評価する。
4. ハイリスク状態にある女性の健康状態について理解し、適切な看護介入を実践できる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「ウィメンズヘルス看護学概論」、「周産期看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

実習1～5日目	褥婦・新生児を対象とした実習
実習6日目	妊婦・産婦の看護技術演習
実習7日目	妊婦を対象とした実習
実習8日目	産婦を対象とした実習
実習9日目	育児期の母親を対象とした実習
実習10日目	まとめ：妊娠期から育児期への支援と看護の役割についての討論

【教科書】

指定なし

【参考書】

周産期看護援助論で使用した以下のテキストを参考書とする。

1. 有森尚子他(2022) 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版
2. 森恵美他(2021) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学各論 医学書院
3. 板倉敦夫他(2022) 新体系 看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社
4. 大平光子他(2022) 母性看護学Ⅱマタニティサイクル 南江堂
5. 井上裕美他(2018) 病気がみえる vol.10 産科 メディックメディア
6. 村越毅他(2018) 帝王切開術バイブル メディカ出版

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価(80%)、実習の取り組み姿勢、カンファレンス(20%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：周産期看護援助論での講義内容、演習内容をまとめる。妊産褥婦と新生児に必要な看護技術を事前に練習する。(3時間)

事後学習：実習中の記録を振り返り補完する。(1時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅸ. あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録は、全領域実習が終了した時点(3年後期)で学生個人に返却する。

【備考】

周産期看護学援助論の妊産褥婦・新生児とその家族についての看護の理解を深め、実習に臨む。助産師として5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。